

## 基調講演

大阪府立大学  
人間社会システム科学研究科

小野達也 教授

小野教授は、  
まず「何のため  
の見守りか」と  
いった見守りの  
哲学の重要性を取りあげました。  
見守られる側、見守る側にとつ  
ての理想を考え、個人・地域の  
幸福づくりのための切り口とす  
ることで新たな地域福祉につな  
がると述べました。また、福祉  
を「最低限度の生活維持の福祉」  
と「幸せの実現を求める福祉」に  
福祉を二極化する指摘もあるが、  
それらを超えてマイナスからゼ  
ロで終わらない理想を追求する  
「増進型地域福祉」の重要性を強  
調しました。その一例として、  
認知症になっても地域のイベン



## 小地域ネットワーク活動 リーダー研修会

### 民生委員・児童委員等との 協働実践から学ぶ

府社協は2月13日、小地域ネットワーク活動リーダー研修会を開催し、大阪国際交流センターには約900人の関係者が集まりました。

民生委員制度の前身である大阪府方面委員制度が創設100周年を迎えることから、今回は民生委員・児童委員との連携をテーマに、地域で取り組まれているさまざまな実践から協働のあり方を学ぶ機会となりました。

サロン」をスタートしました。地域でのつながりが希薄化しているからこそ、子どもたちに、「食べる」「遊ぶ」「ふれあえる」場を作っていくといったの思いから民生委員児童委員協議会と恵我地区連合福祉委員会が協働で取り組むこととなりました。日頃から関係性のある小学校や子ども会などにも周知を行い、現在2カ所で実施。おやつ作りや遊びをはじめ、緊急時に備えてペットボトル

を使った「もしもキット」の制作や絵手紙づくりも行っています。心のこもった絵手紙は、高齢者



福村里美さん



姫岡和夫さん

に使った「もしもキット」の制作

最後に、各団体の役割として、要支援者に寄り添う、情報収集・発信、関係機関との連絡調整などの重要性について話しました。

組みの必要性を感じ、「ごきげんさん連絡協議会」を立ちあげました。区長が委嘱した、ごきげんさん連絡員や熟年会(老人会)、民生委員で構成され、毎月1回以上の訪問を行っています。また、訪問の際には、名札や制服等を着用することで要支援者の方に安心感をもってもらう、話のきっかけとして地域のイベントなどを載せた「ごきげんさんニューズ」を手渡しています。



小西祥夫さん



渡邊省三さん

## パネルディスカッション

### 子どもサロンによる 居場所づくりの連携

#### 松原市

松原市民生委員児童委員協議会  
恵我地区連合福祉委員会

松原市では、子どもの育成・交流の場、子どもの居場所づくりとして昨年6月から「子ども

トに参加して、地域の人と楽しく交流する「RUN伴<sup>とも</sup>」のよう  
な発想がこれから求められると  
語りました。  
※「RUN伴<sup>とも</sup>」とは、認知症の啓発イベント。  
あらかじめ設定したゴールまで当事者や  
家族、支援者、一般市民がタスキリレーを  
して走るもの。

#### 河内長野市

### 防災の観点から見た 取り組みの連携

南花台校区福祉委員会

南花台校区では、市から提供のあった避難行動要支援者名簿の登録者約450人に対して、

津村英子さんは、新たな取り組みを行ううえで、諦めず、チャレンジすることが大切だと述べました。



津村英子さん

#### 交野市

ごきげんさん連絡協議会と民生委員児童委員の連携について  
交野市星田山手区  
旭小学校区福祉委員会  
民生委員・児童委員協議会

星田山手区では、各種活動の持続可能な推進組織の必要性から「星田山手ボランティア・まちづくり推進会」を立ちあげました。さらに、認知症高齢者の徘徊やうつ病の方の失踪などの経験から、地域全体で見守る仕

府社協は、民生委員や福祉委員などそれぞれの役割や強みを生かし、これからも地域ぐるみでの見守り支援体制の構築を推進します。